

梅鶯仏教壮年会報

第106号
2013年
4月21日

去る三月三十日に、平成二十四年度の梅鶯仏教総会が開催されました。田中善博会長のもと、議事が進められ、平成二十五年度の各種行事が左記の通り決定されました。会員の皆様の積極的な参加を願っています。



平成二十五年度行事予定

5月26日(日)	例会
7月28日(日)	例会
9月14日(土)	親睦旅行
11月15日(日)	報恩講
12月30日(月)	除夜会
1月26日(日)	例会
3月29日(土)	総会・役員会

散る桜残る桜も散る桜

(良寛和尚)

スリランカ(旧セイロン) 世界遺産の仏教遺跡を訪ねて

副会長 森 勝昭 ①



今回も瓜生津隆真先生(元京都女子大学学長、真宗学)と共に、仏教園、セイロン島を旅行仲間24名、添乗員1名(トラベルサライ)と、平成24年7月21日から26日まで、かつての内戦国であったとは思えない程の緑豊かで治安の安定したスリランカを訪問し、貴重な体験をするご縁を頂きました。スリランカは、インド大陸の最南端に位置する常夏の熱帯雨林気候の島国である。赤道に近くも暑い国かと思ったが、日本よりもさわやかでしのぎやすい気候であった。紅茶や宝石で有名な島で、北海道よりも少し小さい国土で、首都はシリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ、人口は約200万人、仏教徒(上座部・南伝仏教)が70%、キリスト教11%、ヒンドゥー教10%、イスラム教9%です。

この国は古来から自然風土にも歴史的にもきわめてインドと密接な関係を持っています。紀元前5世紀、北インドからシハラ人の移住、南インドからタミル人の移住と、13世紀頃には南インド動乱に伴うタミル人の侵入の歴史があります。16世紀にはポルトガル、17世紀にはオランダ、18世紀にはイギリスの植民地化となり、このように外国からの侵入や植民地支配された時代があった。1948年2月(昭和23年)にイギリス連邦内の自治領として独立し、1972年(昭和47年)に国名はスリランカとなった。小さな固ながら実に変化に富んだ風土である。高い山でも2500m級で山地は雨も多く、電気は水力が60%、火力が40%で原発はありません。雨量が多くて人工溜池の設備がある地域は、米が年2回(二期作)、雨の少ない乾地は年に1回しか収穫出来ません。他に野菜、バナナ、ゴム、ココナツ、山地では紅茶、ユネスコ世界遺産では文化遺産が6件、自然遺産が2件あります。その世界遺産めぐりの旅行を日程を追って報告します。

朝一番の新幹線で帰って来
ましたが、なんとも便利に



仙壯総会住職法話より